

プレス発表資料



令和3年2月22日
秋田大学
秋田複合材新成形法技術研究組合

秋田大学が独自に開発した「寒冷地コンクリート構造物へ迅速施工が可能な炭素繊維シート融着補修工法」の実用化に向けた試験施工を実施します

秋田大学（学長：山本文雄）は、秋田県地方創生事業として、秋田複合材新成形法技術研究組合（理事長兼プロジェクトリーダー：秋田大学大学院理工学研究科村岡幹夫教授）からの受託研究を受けて、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）など複合材料の新たな成形技術の開発等を行っております。

このたび、成形技術に利用している電磁誘導加熱（IH）を活用し、熱可塑性不織布とIH技術等を用いた寒冷地コンクリート構造物へ迅速施工が可能な炭素繊維シート融着補修工法を、秋田大学が独自に開発しました。この技術の実用化に向けた試験施工を次のとおり実施します。

については、試験当日、施工場所において取材を希望する報道機関におかれましては、あらかじめ秋田複合材新成形法技術研究組合宛にご連絡をいただきますようお願いいたします。

1 背景

高度経済成長期から50年経過し、社会基盤の老朽化対策、さらに厳しい財政状況下でのコンクリート構造物を主とした長寿命化対策は国や地域の喫緊の課題となっております。こうした状況を背景に、橋梁等のインフラ長寿命化に資する新技術の研究開発・実証へのニーズ高まりを受け、秋田大学では、複合材の建設構造物補修への応用開発にも取り組んでおります。今般、積雪寒冷地である本県の施工環境に適應できる新たな技術開発に成功、秋田県および民間施工業者2社の協力を得て、以下に記載の2か所にて実証試験を実施するものです。

2 開発した技術・工法の概要

橋梁等、コンクリート構造物の補修・補強が必要な部分に、熱可塑性不織布※に電磁誘導加熱（IH）を与えることで軟化させ接着剤とし、炭素繊維シートを当該箇所に融着します。

※熱を与えると軟化する性質を持つ樹脂を不織布化したもの。軟化までは保温材として機能し、高効率な昇温が可能となる。

3 研究者等

プロジェクトリーダー	秋田大学大学院理工学研究科	村岡 幹夫	教授
中心研究者	秋田大学大学院理工学研究科	寺境 光俊	教授
〃	秋田大学大学院理工学研究科	徳重 英信	教授

4 試験施工日時・場所（以下の2か所にてそれぞれ実施）

- (1) 場 所：主要地方道 秋田御所野雄和線
秋田市河辺戸島字川苗代「戸島ボックス内」 ※別添地図ご参照
施工日時：令和3年3月1日～令和3年3月3日（予定）
※試験現場での取材可能日時は、
令和3年3月2日（火）13時～14時
- (2) 場 所：主要地方道 秋田男鹿半島線
男鹿市船川港女川二ツ坂「オナガワハシ」 ※別添地図ご参照
施工日時：令和3年3月8日～令和3年3月10日（予定）
※試験現場での取材可能日時は、
令和3年3月10日（水）13時～14時

【申込み・問い合わせ先】

- 1.秋田大学大学院理工学研究科 広報・企画担当
電話：018-889-2318／FAX：018-889-2300
E-mail：kokoki@jimu.akita-u.ac.jp
- 2.秋田複合材新成形法技術研究組合 事務局
電話：018-889-2701／FAX：018-837-5356
E-mail：akitafukugou@gipc.akita-u.ac.jp

主要地方道 秋田御所野雄和線
秋田市河辺戸島字川苗代 戸島ボックス



主要地方道 秋田男鹿半島線
男鹿市船川港女川ニツ坂 オナガワハン

